

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493300162	事業の開始年月日	平成24年4月1日
		指定年月日	平成24年4月1日
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語かもい		
所在地	(〒226-0003 ) 神奈川県横浜市緑区鴨居7-1-9		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成26年3月13日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1. 入居者お一人お一人の出来ることを大切に、皆様が落ち着いて生活が出来るようにお手伝いさせていただきます。
2. 日々の散歩・近隣のコンビニやスーパーでの買い物など外に出る機会を作り季節を感じていただいたり、気分転換を図っていただけるようにしています。
3. お一人お一人に要望を伺い・・・遠出のハイキング・デパ・トでの買い物・お墓参り・外食など入居者様と一緒に企画を立て喜んでいただいております。
4. 皆様の持つる力を維持できるように調理・掃除・洗濯ものたたみ等できることをやっていただき、遣り甲斐を感じていただけるようにしています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年12月18日	評価機関 評価決定日	平成26年2月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

#### 【事業所の概要】

この事業所はJR横浜線鴨居駅からバスで5分の「鴨井六丁目」下車、徒歩3分の場所に立地する。閑静な住宅街の一角にあり、事業所前の道路が広く、近隣に公園、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、2カ所の団地がある。建物は木造2階建て、エレベータ付きである。前庭が広く、季節の花を植えたプランターを置いている。

#### 【開放的で明るい】

職員の離職が少なく、開設時からの職員が多いので連携が良い。利用者と職員は馴染みの関係となっていて、利用者に家庭での生活のように過ごしてもらっている。ユニット入り口に鍵をかけないので利用者はユニット間を自由に行き来できる。事務室も開放している。昨年度の目標達成計画の課題2項目をクリアした。着実なサービス向上をめざしている。職員は楽しく働くことを心がけ、その笑顔が利用者の笑顔の生活を生み出している。

#### 【快適性を求めた演出】

天気が良ければ毎日散歩している。共有空間はバリアフリー構造で、廊下は十分な広さがあり、手すりを設置して安全を確保している。窓が大きく採光が良く掃除が行き届いている。掃除は職員が行っている。玄関を始めリビングのテーブル、廊下などに、毎週「花守」が活けた花々が数多く飾られ、「花物語」を演出している。寒い時期は取り替えた花を再利用してテーブルに小さく活けている。クリスマスツリーや雪だるまなど、季節の飾りを利用者と職員が共同で作って飾っている。玄関や廊下などに行事風景の写真をきれいに整理して掲載し、利用者や来訪者を楽しませている。ユニット入り口に職員や管理者の顔写真に名前を添えて掲載している。加湿器や空調設備を活用して湿度や温度を快適に調整している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語かもい
ユニット名	1F

アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。

事業所名	花物語かもい
ユニット名	2F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各フロアーに掲示して職員の目に触れるようにしてある。毎月のスタッフ会議やフロア会議で自分たちの支援が理念に沿っているか振り返りを行っている。	理念は開設時に皆で話し合っで決めた。職員と利用者の関係をどうしていくかということがまとめて記され、地域との連携を深めるために外に出て言葉を交わすことを大切にしている。入職時にOJTで理念が記載された業務覚え書きを渡している。申し送りや唱和し、研修で話している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩での挨拶・クリーン活動での交流・催し物での交流が出来つつある。	散歩で地域の人と言葉を交わしている。自治会に加入し、クリーン活動、近隣の公園での餅つき大会、夏祭りや花火大会などに職員と利用者が参加している。事業所の秋祭りのチラシを配り、近所の子どもの参加を得た。事業所の行事にハーモニカやピアノ演奏のボランティアが来訪した。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は散歩やクリーン活動中の相談などには応じている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や民生委員・地域包括の担当者等から意見をいただきサービスに生かすことが出来つつある。	運営推進会議は年6回開いている。事業所の状況や行事、事故の報告やボランティアの来訪などについて説明し、行事やイベントの予定、外部評価の報告も行っている。時折居宅介護支援事業所を招く。会議の後半は茶話会形式で意見交換を行っている。自治会長は出席していない。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者受け入れ情報や書類提出時に指導をいただいている。	緑区高齢福祉課とは、運営や運営推進会議の議事録提出について助言を受けるなどしている。区の保健担当者が感染症・食中毒の感染防止やキッチンの衛生管理について指導に来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内でのスタッフ研修やミーティング等で理解を深めるように取り組んでいる。1,2階フロア間は施錠しないで自由に行き来していただいている。安全のため玄関のみ家族の了解を得施錠している。	運営規定や契約書、重要事項説明書に身体拘束排除について記載している。身体拘束について職員研修を行っている。言葉での拘束について、気がついた時はすぐに注意している。玄関だけは安全確保のために施錠している。家族に説明して了解を得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内でのスタッフ研修やミーティング等で理解を深めるように取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内でのスタッフ研修やミーティング等で理解を深めるように取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、重要事項の説明を十分に行いご理解頂いた上で契約をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望・意見を敏感に感じ取りミーティングなどを通し速やかに個別ケアに活かせるように取り組んでいる。家族の面会が多い方なのでご意見をお聞きする機会はある。	ほとんどの家族が週1回は面会に来ている。家族の意見は管理者が聞き取るほか、職員が聞き取って管理者に報告している。事業所から家族アンケートを実施している。月1回の家族への手紙で事業所への意見を求めている。家族の希望により、法人のミニバスを利用して遠足に行った。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談の機会を設け個々の職員の意見交換や提案を反映させるように心がけている。	管理者が行う年2回の個人面談で要望や意見が出ることもある。ユニット会議、スタッフ会議、カンファレンスなどに職員が参加して意見、要望、提案を述べている。看護師から口腔体操について提案があり、皆で話し合い検討して実施した。リクリエーションは担当職員を決めて企画を任せている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とは個人面談を行い働きやすい時間、曜日などを考慮して勤務していただいている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得支援制度や内部研修、外部研修についても希望者には受講できるように勤務調整をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡会や勉強会の情報を知らせ参加を奨励している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に当事業所を見学頂きまた、自宅訪問させていただきアセスメントを取り要望に耳を傾け、ご本人の不安を和らげるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前に当事業所を見学頂きまた、自宅訪問させていただきアセスメントを取りご家族様の要望に耳を傾け、不安を和らげるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご見学時また、自宅訪問時に今何が必要か優先すべきことかをご本人とご家族様と確認し、ケアプランに盛り込んでいる。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることは何か、常に一緒に生活できるように役割を担ってもらい、遣り甲斐を持って生活していただけるように働きかけている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や日々の暮らしぶりなどの情報をご家族と共有し、共にご本人を支えていけるように連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力していただき家族だけでなく親戚や友人・知人の来訪を歓迎し、また、馴染みの場所への外出により関係を維持できるように支援している。	利用者の近所の方や以前の職場の知人が訪ねて来ることがある。お墓参りの送迎を行っている。自宅に帰るときに送迎することもある。知り合いから電話があった場合は取り次いでいる。利用者についての問い合わせには、個人情報保護の観点から誰から聞いたかなどを確認してから答えている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくリビングで過ごされるように楽しめる環境づくりを行っている。利用者同士がよい関係を保てるように時には職員が話を振ったり、橋渡しをして雰囲気づくりに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でもご家族からの相談に対してはきめ細かい対応ができるように心がけている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	随時利用者からお話をお聞きする。そのことを毎月カンファレンスを行い情報を共有し、検討している。またモニタリングやアセスメントを通じて支援サービスの見直しを検討している。	居室担当を決めマンツーマンでコミュニケーションを密にして、利用者の思いや意向を把握している。意思の疎通が困難な場合や言葉にしづらい思いは、利用者に寄り添って選択できる質問を投げかけるなどして、表現や仕草を見て答えを聞き出し、把握している。把握した情報は日報などに記載して共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や生活環境など職員間で共有し、把握できるように心がけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録への確実な記載と申し送り記録の活用により日々の暮らしの中での必要な情報の共有を全職員で行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別記録に記入したことや日々のケアによる気付きをフロア会議で共有し、モニタリングやアセスメントにも職員が関わり、共に介護計画を作成している。	アセスメントで課題を抽出し介護計画を作成している。計画の目標とサービス内容に記号・番号を付けて介護記録に記載している。カンファレンスを開いて計画と記録を基に実施計画をモニタリングして評価を行っている。家族の希望は担当者会議で聞いており、必要に応じ医師や看護師のアドバイスを受けている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入したことや日々のケアによる気付きをフロアミーティングの場で共有し、個別ケアに活かしている。職員にモニタリングやアセスメントに参加してもらい計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望により介護保険の更新申請代行や通院・送迎など必要な支援は柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流や自治会の行事など充実させてきている。また、ボランティアさんにも協力してもらい豊かな時間を楽しんでいただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は2週間に1回、歯科は毎週1回の訪問診療で協力していただいている。看護職員は往診医と連携し情報を密にしている。	往診医の訪問診療は2週間に1回、看護職員は往診医に同行して情報を記録している。歯科医は毎週1回往診している。以前のかかりつけ医や他の科目の診療は原則として家族対応であるが、止むを得ない場合は支援している。診療情報は聞き取って記録している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し介護職員は利用者の健康管理や状態変化をその都度報告し其の方に応じた支援を行っている。不在時には24時間のオンコール体制をとり利用者の状態について適宜報告し、指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院中もご家族や医療機関相談員との連絡や相談を行うよう心がけ退院時にはスムーズに受け入れができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に法人の『利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針』を説明している。	医療連携体制加算を満たす、「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」を契約時に説明している。その内容を職員も研修を通じて共有している。管理者としては、家族の希望と医師の指示など条件が整って、自然な形で見送ることができれば看取り介護を行うつもりである。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法は内部研修・外部での研修で周知を行っているが実践力を身に付けるには更に研修が必要と思われる。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所としての避難訓練を定期的に行っている。夜間を想定した避難訓練も利用者も参加して行った。職員も近隣者が多いのですぐ駆けつけられる。施設倉庫には水・食料等の備蓄を行っている。	避難訓練は年2回、消防署の立ち会いで実施している。夜間想定訓練も行っている。職員の緊急連絡網を作成している。自宅から約5分で駆けつけられる職員がいる。地域ケアプラザ職員と民生委員が参加している。水・食料・備品が保有されている。法人の作成した備品リストをもとに備品を常備する予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であるという認識を持って接しており接遇については言葉使い等に気を付けるようミーティング・研修を行っている。不適切な言葉かけがあった場合はその時々注意し直している。	利用者の権利擁護・プライバシーの保護、接遇・倫理の研修を行っている。職員の言葉遣いや不適切な対応があったときは、その都度注意している。食事中の入れ歯の装着時に職員がさりげなく体で他の利用者の視線を遮っていた。個人情報に関わる書類は事務室の施錠できるロッカーに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身から言いやすい環境づくりに努めている。押しつけではなく選択し自己決定できる場面づくりを増やすことをフロアミーティングなどで話し合っている。例えば10時のお茶を選んでいただく。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お部屋で休息したい・テレビを見たい方はお部屋へ。皆さんと歌を歌いたい方はリビングで過ごすなど本人のペースを優先している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理美容の利用、入浴時の着替えも利用者の好みを優先して選んでもらう、また起床時の整容のお手伝いも行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理を行い味見をしたりしながら楽しみでもあり遣り甲斐も感じていただいている。行事やお誕生日会、手作りおやつの日など参加できる機会を作っている。	献立と食材は専門業者が前日に配達している。調理は職員が行って温かいものを提供している。メニュー以外の希望があれば、配達をキャンセルして、食材を購入し行事食や特別食を提供している。分量、ワンプレート、ランチョンマット使用など個別に対応している。利用者のできる方は下膳などを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録は必ず行い、一人一人の状態などを把握できるようにしている。水分についてはゼリーや好みの飲み物をを用意し摂取しやすくしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科を利用し、口腔内の状態をチェックしていただいている。毎食後の口腔ケアへの声掛けも行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄は個人記録にて把握でき声掛けしてトイレ誘導させてもらっている。声掛けを行うことにより失敗も入居当時より減少傾向がみられている。	排泄は自立の方が多いが、夜間はおむつ、昼間はリハビリパンツの方もいる。排泄失敗時は羞恥心に配慮してさりげなく始末している。従来、失禁後の始末を終えてすぐトイレの外に誘導していたが、長めに時間をとるようにした結果、排泄が完了できるようになり失禁しなくなった事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量（一人一日目標1000ccを目指して・・・汁物別）を個人記録にも記しゼリー等で少ない人には補っている。毎日体操・散歩を行い運動不足にならないように取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的入浴日・時間は設定しているが利用者の意向を確認して朝の入浴を希望する方には入浴していただくなど支援している。季節のゆず湯・しょうぶ湯など楽しめるように行っている。	入浴は原則として週2回、午後となっているが、希望により時間や回数を変えるなど柔軟に対応している。好きでない方には声かけや誘導方法を工夫してできるだけ入っていただいている。男性には「一番風呂をどうぞ」などと誘って入ってくれた例がある。空調設備で脱衣室の温度調整している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠していただくように日中の活動量を確保出来るようにしている。また、夜間の定時巡回時に室温・湿度や睡眠状態を把握し支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録と別に個人薬情報も常時確認できるようにしている。職員2人によるチェックを行い服薬事故が無い様にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌集・縫物・塗り絵・脳トレ・写真集・雑誌・折り紙・紙芝居などを用意し其の人・その時に合ったものを楽しんでもらっている。外出・外食の楽しみ・気分転換を図る。日々の家事参加での張り合いなどを感じていただけるように支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出等本人の希望に添えるようにしている。その時々家族とだったり、行事での外出は法人のバスを依頼し出かけることもある。	天気がよければ毎日散歩している。事業所の近所を回る10分コース、少し遠く公園などへ行く20～30分コース、コンビニやスーパーに買い物に行ったり、手紙を投函するなどいろいろなコースがある。数人ずつまとまって出かける。外出行事として法人のミニバスで遠方へ出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は殆どの利用者は事務所で管理をしているが中には自分で管理で買い物を楽しんでいる方もいる。買い物には付き添って支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所設置の電話や利用者の手紙のやり取りはご本人の希望や家族のご意向に即して出来るように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大事にし、寛いでいただけるようにソファも設置している。出来るだけ季節感を感じていただけるように活け花を絶やさないようにしている。温度管理や照明も心地よい様に調整している。施設外の花壇にも花を楽しんでもらえるように心がけている。	玄関を始めリビングのテーブル、廊下などに、毎週「花守」が活けた生花が数多く飾られ「花物語」を演出している。利用者と職員がクリスマスツリーや雪だるまなどを共同で作り飾っている。玄関や廊下などに行事風景の写真を掲載し、利用者や来訪者を楽しませている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性を考慮し、席を決めている。必要に応じて席替えを柔軟に行っている。ソファでは気の合った同士が寛げるように配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや馴染みの物を持ち込んでいただき居心地良い環境づくりにご家族も協力していただいている。居室清掃・リネン交換も定期的に行い気持ちよく生活できるように支援している。（利用者と一緒にすることも多々ある。	常備品は空調設備、照明器具、収納設備、ベッド、洗面台である。利用者は加湿器、寝具、小物入れ、チェスト、椅子、テレビ、家族の写真など思い思いの物を持ちこんでいる。見守りが必要な場合は、紙製の小さな箱を使ってドアを締め切らないようにしている。個室は花飾りや貼り絵などで分かりやすく表示している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂・居室の表示についても利用者にはわかりやすい表示になるように工夫を心がけている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語 かもい  
作成日 平成26年2月26日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		近隣の方との 参加型消防訓練 を行う	消防訓練の中の 夜間想定避難 訓練に地域の住民 に参加してもらう	地区の自衛消防団の 協力により地域 住民への呼びかけ、 内容を案内し参加 依頼する	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。